

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 29 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870103292		
法人名	有限会社 託老所 あんき		
事業所名	グループホームこんまい「あんき」		
所在地	松山市西垣生町1680-1		(電話) 089-971-3318
管理者	前田珠貴		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 1 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 3 日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある民家改修型のホームである。散歩中の人に気軽に声を掛け玄関先で井戸端会議が行われるのが日常になっている普段着の生活が提供されている。広めの民家を改修しているためにスペースに余裕があり、そのスペースを地域の広め「縁側プロジェクト」という交流の場を設定している。地域密着を開設当初から実践している先駆的なホームと言える。  
地域の人に終の棲家を提供したいと言うホームの思いに賛同しているかかりつけ医と密な連携が取れており、看取りを行っていると言う言葉には力強さを感じる。若い頃に苦勞された高齢者には安心

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

外部評価が行われるごとに改善計画書を公表し、改善課題に取り組んでいる。細かなことも改善の意義を理解し、利用者へのサービスの質の向上に努めている。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は、管理者と職員の話し合いがよくもたれている。評価項目の問いかけにも返答が異口同音に寄せられ、真摯に自己評価に取り組んでいることがうかがえる。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議を、情報開示の場や利用者のケアの質の向上の話し合いの場に留まらずに、地域の人たちに積極的に参加を呼びかけ、勉強会や講習会と一緒に開催している。地域の福祉拠点として近隣住民へ働きかけていることは、運営推進会議の意義をよく理解していると言える。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

管理者は、家族との関係は利用者のサービスにも影響があるとの認識があり、意見や苦情などの聞き取りに努めている。職員にもその考えは浸透しており、面会時に聞き取った意見などは会議で話し合いが持たれている。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

「縁側プロジェクト」というホームの一部を地域に開放しているスペースがあり、近隣住民だけでなく園児や小学生との交流の拠点にもなっている。鍵の開閉や管理の一部も近所の人々が積極的に担当しており、地域の拠点として馴染んでいる。利用者と地元の人と交流する場としては他には見かけない取り組みであり、高く評価できる。

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.3 人

## (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( )円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 1 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	1 名		要介護 2	3 名	
要介護 3	2 名		要介護 4	2 名	
要介護 5	1 名		要支援 2	名	
年齢	平均 86.5 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

## (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームこんまい「あんき」
(ユニット名)	_____
記入者(管理者)	_____
氏名	前田 珠貴
評価完了日	平成 19 年 9 月 10 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員会議等で地域密着型サービスについてその人の生活とは、その人の地域とはについてグループ討議を行い、理念の再確認をしている  (外部評価) 運営者は地域で高齢者を支えようと宅老所を立ち上げ、その延長線上にホームの運営がある。そのため、地域と共にという考えは当たり前のようにあり、しっかりとした理念のもとホームを運営している。このホームをお手本にしようと見学者が後を絶たない理由も、地域と密着した理念の構築に見出すことができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りやホーム内での研修時に運営理念に基づいて支援が出来る様に話し合いを重ねている  (外部評価) 運営者の熱い思いで地域密着型のホームを開設しており、その活動に共感した人たちが管理者であり、職員である。管理者や職員は、周りが支えている運営者の理念に応えることが職務であると考え、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やボランティア活動(心のテーブル)を通じて家族や地域の人に理念の大切さや地域で暮らし続けることの大切さを伝え話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者さんと散歩にでかけた時に会った人に挨拶をしたり、近所の方がホームの庭の草引きや水遣りを自主的にしてくれている 縁側を開放し、近所の方の散歩途中の休憩所や不用品交換の場として憩いの場所作りを行っている		今後NPOのボランティアさんの居場所作りと地域交流のあり方について、地域づくり人養成講座などを活用し、より多くの地域の方に関ってもらえるように取り組んでいく
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の行事や敬老会、地区の文化祭や幼稚園の行事に利用者さんと職員が一緒に参加している  (外部評価) 「縁側プロジェクト」という、ホームの一部を地域に開放しているスペースがあり、近隣住民だけでなく園児や小学生とも交流する拠点となっている。鍵の開け閉めや管理の一部も近所の方が積極的に担当しており、地域の拠点として馴染んでいる。利用者や地元の人とが交流する場としては他には見かけない取り組みであり、高く評価できる。	※	
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者大学の講師として地域で老いることとはについて一緒に考え、勉強している 老人クラブや地域の人を対象になるほどなっとく安心介護の講演会を実施した		
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全員で行い、ケアの振り返りを行っているが、意義の理解までには至っていない  (外部評価) 管理者も職員も自分達の職務を見つめなおす機会として自己評価を重要視しており、真摯な姿勢で向かい合っている。前回の外部評価に対しても、改善計画書及び報告書を作成し利用者へのケアの向上に積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者さんの日々の生活の実態を報告すると共に、重度化した利用者さんの家族とともに最期まで人として生き残るための食事方法や技術を年間テーマとして取り組んでいる  (外部評価) 運営推進会議は地域に積極的に参加を呼びかけ、ホームの情報公開等を行っている。また、いろいろな人が集まることが良い機会であると捉え、勉強会や講習会を一緒に開催し、地域の福祉拠点として活動を行っていることは、運営推進会議を意義をよく理解しており評価できる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 職員は市の研修に積極的に参加している他、ホームで行う行事には案内を出して参加してもらっている  (外部評価) 運営者が市や県の認知症ケアの指導者として活動を行っており、行政との付き合いは深い。管理者もホームの催し物の案内を市担当者に送付している。市担当者が普段着の利用者とふれあう機会を多く設けることで、異なった視点からの意見を収集することができ、それをサービスの質の向上に役立てている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を受けた職員が報告研修を実施し、職員会議においても年1回は研修内容とし勉強している		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所間（伊予つむぐの会）で勉強会を行っているが、職員全員には徹底できていない 広報誌や新聞の情報も提示している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間を取り、説明およびケアの内容や雰囲気を感じてもらい理解を得ている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常生活の中で利用者さんとの会話から意見が聞けるように心がけている ボランティアさんとの交流により職員に伝えにくい事等はボランティアさんから職員に伝えてもらっている		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の訪問時や受診した時に日常の様子等を連絡報告している（口頭で伝えるほか写真やビデオを見てもらっている）  (外部評価) 管理者は、家族との関係は利用者のケアの質にも影響がある重要な要因であるとの認識から、丁寧に連絡や報告を行っている。家族の訪問が頻繁にある利用者が多く、面会の少ない人でも月に一回程度の訪問があり、その機会に話し合いだけでなく、写真やビデオなどで利用者の日常を報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しているほか、家族の訪問の機会をとらえ意見等を話してもらえるように心がけている  (外部評価) 管理者は家族の個性をよく理解しており、積極的に意見を出す家族には耳を傾け、「お世話になっているから」ということであまり意見等を切り出しにくそうにしている家族には、面会や電話などで話を切り出しやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月運営者と職員がミーティングを行い、意見を出し合い、反映できるものはすぐに実行している		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) リーダーが必要に応じて柔軟に対応し、職員の協力体制もできている		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ワンユニットの為異動は無いが、離職時には時間をとって利用者さんに説明をしている  (外部評価) 1ユニットのホームであり、運営法人内の施設との異動もなく、利用者との馴染みの関係が構築しやすい運営体制である。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の事業所と職員交換研修を実施している 法人内で介護技術の研修の機会を実施している  (外部評価) 法人内外で職員育成のための研修会が充実しており、多彩な講師陣で月一回以上勉強する機会がある。新人職員が数人おり、認知症ケアの専門性を高めていくトレーニングが実践の中に必要な時期である。具体的な方針の立案が求められる。	※	ホームの開設以来、看取りケアを実践しているが、現在必要性のある利用者はいない。看取りケアを実践している職員と現在の状況しか経験の無い職員（特に新人）には、ケアへの取り組みに差が見られるため、その距離を埋める取り組みが管理者に求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会において地域別グループワークに参加し情報交換を行っている  (外部評価) 運営者の人脈で「伊予つむぎの会」というネットワークがあり、勉強会や相互訪問等を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ホーム外（法人内）の交流や親睦会を行っている		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 成果目標シートを作成し、目標達成のための具体策を面談をして話し合っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分な時間をかけ、本人の不安や困りごとに対して本人が納得いくまで傾聴している		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談時に十分な時間をとり、相談内容から求めていることを受けとめ、時には家庭訪問をして現状の理解にも努めている		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、情報提供し一緒に考える努力をしている		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 法人内での行事等や共用型通所介護を利用しながら、なじみの関係を作っている  (外部評価) 現在、ホーム内での通所介護には週1回の利用がある。同法人のデイサービスとの掛け持ち利用で、本人の生活の活性化を担っている。また、同法人の訪問介護の利用者もホームに遊びに来る機会も多く、ホームの直接的利用者との馴染みの関係作りにも積極的である。しかし、これらの取り組みはホームの入居希望者の馴染み作りには直結していない。	※	地域の人との馴染みの関係づくりと入居希望者との関係づくりとを一体化した取り組みがなされると、より地域に密着したホーム運営となるので、前向きな取り組みをしているホームであるため、一考願いたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごしながら本人の趣味や生活歴、風習を考慮し暮らしの中で発揮してもらっている  (外部評価) 新任の職員は家事全般を利用者から教えてもらうようホーム全体で取り組んでいる。また、高齢者は知識人であるとの認識を持ち、日々の生活を支え合う関係が構築できている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事に参加してもらい、共にその雰囲気を楽しんでもらい、時には本人の好物の差し入れ等により家族と団欒できる時間が取れるなど切れ目のない関係を保っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 日帰り旅行や行事に参加してもらったり、いつでも来てもらえる雰囲気作りをしている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴の中で忘れられないことを聞き、その場面や場所を逃さないように努力している		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士の共通の話題やレクリエーションを通し、お互いの関係が深まるように努めている		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用者さんや家族の思いを聞き取り大切にしているもの、想いを受けとめて、いつでも来てもらえるような雰囲気や声かけをしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、さりげなく本人の意向や希望を聞き、また家族からの意向や希望を聞き、ケアプランに反映している  (外部評価) 長く勤めている職員は、利用者との深い信頼関係が築かれている。その背景には利用者の生活をよく理解していることがある。生活を理解するために利用者の生活歴を把握することが求められるが、資料としての記録が少なく、職員間で知識の開きがある。	※	利用者の生活歴は、アセスメント時の物があるだけで、その後に関与した情報は介護記録に記載されているために、記録としての蓄積がなされているとはいえない状態である。利用者の思いや意向を把握するために重要な情報なので、生活歴シートを作成することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取り、生活歴の把握をする為に自分史作りの取組みを始めた		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日の食事と入浴と排泄とバイタルによる基本的な状況把握をし、なおかつ行動や言葉によって総合的に把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族から意見を聞き、職員全員でカンファレンスを行い、それに基づき介護計画を作成している  (外部評価) 介護計画は、本人や家族と相談のうえ職員全員で作成している。また、ホーム内の小さな催し物にも地域住民が参加しており、その際には参加者の意見も取り入れている。地域がチームとして介護計画に取り組んでいるといえる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じて見直しし、変化が生じた場合は状況の把握を行い家族や関係者から情報収集し、新たな計画作成をしている  (外部評価) 介護計画の見直しは3か月ごとに、利用者に変化があった場合は随時行っている。介護計画の資料として3か月分の介護記録の整理が行われている。資料作成の作業は大変な手間と推測できるが、介護計画に即するにはもう少し工夫を求めたい。また、日々の介護記録にも介護計画を意識した記載方法の考察が必要である。	※	介護計画は詳細に具体化されているので、介護記録の資料としては、介護計画に項目に即した内容のみ抽出し話し合いを行うことが、介護計画を明確化させる一つの方法と考えられる。また、介護記録の表紙に介護計画表を入れるなどで、職員の目に絶えず触れる工夫も期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事や気づいたことは個人記録と申し送りノートに記入し、全員が情報を共有し、毎月のミーティングで介護計画の見直しをしている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の状況により、外泊や外出を希望されたり各機関への送迎等状況に応じて柔軟に対応している  (外部評価) 1ユニットの民家改修型ホームなので、設備的にも人員的にも余裕があるわけではない。しかし、家族支援という視点で利用者の通院介助、送迎などを行っている。また、地域への働きかけにも余念がなく、それが地域住民を経由して利用者の生活を支えている。この関わりは他には見かけない独自の機能として評価できる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年間を通じて行事に参加してもらったり、訓練事業や地区文化祭、また月4回の幼稚園児との交流により、より相互扶助の関係にある		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要と思われる利用者さんの該当がありません		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要と思われる利用者さんの該当がありません		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の希望により、往診や訪問歯科その他の医療機関への受診に同行し、家族への報告を行っている  (外部評価) 運営者が宅老所として地域に密着した活動を行っている頃から、医療面の要として関わっているかかりつけ医がホームにはある。利用者や家族はその連携体制に安心感を持っており、納得のもとでホームのかかりつけ医に医療を委ねている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 状態により協力医院の相談や助言をあおいでいる 指示により他の専門医にも受診している		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 法人内の看護師や地域の医療機関の看護師と連携をとっている 協力医院の看護師がホームの隣に暮らしているのので何かの時には相談している		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 馴染みの関係が切れないように職員が順次面会に行き、必要に応じて病棟の看護師に状態を伺っている		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 日頃から本人の希望、家族の気持ちを医師に伝え、職員全員が情報の共有を図り、状態の変化に応じて連携を図っている  (外部評価) ホーム運営の目的の一つに終の棲家を提供することがあり、開設当初より看取りを実践している。医療との連携にも安心感があり、管理者をはじめ職員にも家族の協力が不可欠であるとの認識が深く、終末期に向けた方針は共有できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度や終末期であると医師から伝えられた時、家族と職員とで今後に向かってのカンファレンスを行い、家族の意向を受けとめ、家族と医師と共に状態を共有し、最期までその人らしく暮らせるように看取っている		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人に関する全ての関係者が面談し、情報交換した後書面で情報提供している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声掛けや、昔の馴染みのある呼び方で対応している(家族にも確認をとっている) 記録は厳重に保管している  (外部評価) 利用者への声掛けは、その人が落ち着いて生活ができるように呼びかけには配慮があり、職員間で統一が取れており、自然である。職場研修会では個人情報保護法についても学習が行われており、プライバシーの確保には余念がない。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定できる方については自己決定に添えるケアをしている 本人に説明しても自己決定できにくい方については家族と共に考え支援している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者に今日一日何をして過ごしたいか、何を食べたいか話し合いながら本人がしたいことを優先し楽しく過ごしている  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。外出することの意義を十分に承知しているが、たまにはダラダラと過ごす時間も人間には必要ではとの話に、普段着の生活を見守っている状況を垣間見ることができる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 美容室に行きたい人は希望する美容室に行ってもらっている気分を変えたいときなどは、毛染めのカラーを本人の好きな色に染め喜んでもらったり、マニキュアをしたりしておしゃれを楽しんでもらっている		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんが何を食べたいかを聞き、期待にそえるように作っている 食べ終わると自分からすすんで片づけを手伝ってくれている  (外部評価) 新鮮な食材を使い、食事は楽しみであると認識し、その日の材料を見ながら、利用者と「どんなにして食べようか」と日常的に会話があるのは評価できる。若い職員との会話は孫と祖母のやり取りのようで微笑ましい。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) それぞれの嗜好を聞き、食べれる形態を工夫してなるべく手作りのおやつを楽しく食べてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを知り、家族と相談して、日中はなるべく下着で夜間は尿量に合わせたオムツを提供している		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 時間帯、お湯の温度、入浴の時間等一人ひとりの希望に沿って配慮し、入浴してもらっている 入浴は毎日実施している  (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者職員が信頼関係を構築する場でもあるとし、ケアのポイントとして重要視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの1日のリズムに合わせたお昼寝や庭の散歩等行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人の得意としている事を、日々の生活の中に取り入れ、外食やドライブや散歩等本人が希望する支援をしている  (外部評価) 地域との信頼関係が構築できており、ホームへの訪問が多く閉塞感がないため、張り合いのある生活が提供できている。また、管理者は利用者の個性にも注意を向けており、その人なりの役割が日常生活の中で担えるような支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物や外食時には、それぞれの好物やメニューを選んでもらい楽しんでもらっている		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日々庭に出て過ごす事が多く、近所の人との交流もあり、又四季折々にはお花見や日帰り旅行等も実施している その都度利用者さんに聞きドライブは実施している  (外部評価) 管理者は外出の意義を十分に承知しており、出ることが当たり前の生活を提供している。広い庭があり、そこで開かれる近所の人と井戸端会議も利用者の楽しみになっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ドライブを兼ねて近くの八十八ヶ所参りに出掛けたり、すんでいた所のお祭りや行事に参加している		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望者には本人の部屋に電話を置き、自由に電話出来る様に支援している はがきや手紙が届いた時には本人に手渡し、一緒に読んでいる		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 電話で話したお友達が遊びに来てくれたり、面会時間は決めていないので、家族や近所の人でも自由に出入りしてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で身体拘束に対する理解を深め、身体拘束をしないケアを心がけている		身体拘束の詳細の理解に向けて研修を実施していきたい
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全室、玄関等日中は鍵はかけていない  (外部評価) ホームの1階部分は掃き出し窓が多く、裏手には勝手口もある。しかし、日中は玄関だけでなく全ての出入り口に鍵は掛けられていない。夏の就寝も夜風を入れることを基本としているために窓を開放している日が多く、鍵を掛けないケアを徹底している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は皆でリビングで過ごす事が多く、自室で過ごしている方には時々声掛け見守りをしている		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 生命の危険を伴う物品については厳重に管理保管し、注意が必要な物品については職員が置き場所を把握している		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりはっとや研修会に参加して知識を深めている 年2回の防災訓練には町内及び利用者、職員全員参加している		事故防止とは事故予防につながるので今後事故予防の研修を実施したい


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアル作成しマニュアルどおりの対応訓練をしている 応急手当の研修に参加している		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 町内の防災訓練を実施するに当たり、当ホームで夜間地震による火災発生を想定とした訓練を実施した  (外部評価) 地域の人たちと避難訓練や災害対策について詳細に話し合いが持たれている。実際の訓練も「夜間に地震による火災発生」というような具体的な課題のもと行われており、対策には余念がない。なによりも地域の人たちが利用者の状態をよく把握していることが心強い。		今後も町内の協力や松山市消防署の協力のもと年2回の訓練事業を行う
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じてその都度家族に説明し、意見交換して納得してもらっている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 個々の表情や動作、毎日のバイタルチェックで健康状態を把握し、記録し、異変時には上司に連絡して対応している		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服薬管理を行い、薬の効能効果・使用上の注意等を添付し職員全員に周知している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘についての研修会に参加し、食材や水分が取れる工夫をする他、散歩等適度な運動も職員と一緒にしている		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望により毎食後は必ずしも歯磨きをしていない人もいるが、1日1回は必ず口腔ケアをしている		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 昔ながらの食材にこだわり、昔食べていたものの継続、食事量の把握と記録し、職員間で伝達しあって1日の栄養、水分の確保できるように気をつけている  (外部評価) 食事は職員も自慢しているとおり美味しくバランスの良い食事が提供されている。運営者の「美味しいものをしっかりと食べてもらい、よく運動をしろらう」との考えのとおり、テーブルいっぱいに食器が並んでいる。必要に応じて水分量の管理も行っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成し、ノロウイルスに対しては独自のノログッズを準備している インフルエンザ等は本人、家族の希望により予防接種、その他の感染については医師と連携を図っている		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、調理用具等は殺菌除菌の漂白をしている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関の前に縁台を置いたり、花壇を作っている 近所の人が花壇作りを手伝ってくれている		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や馴染みの置物等により、心地よく過ごせるように工夫している  (外部評価) 民家改修型ホームの特徴である懐かしさがあり、空間的にも余裕があるのでゆったりできる。利用者の趣味の作品や行事の際の写真などの飾り付けなども落ち着ける演出である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭の見える廊下にソファを置いたり、デッキにもソファを置き、くつろげる場を設けている		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に本人と家族が相談して、馴染みの家具や品物を持ってきてもらっている  (外部評価) 使い慣れたタンスや布団、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせる居室への配慮が見受けられた。民家の和室をそのまま活用している部屋は味わいのある雰囲気、畳に横になっての昼寝が気持ちよさそうである。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 全室両側が庭に接しているため空気の流れは良く、個々に合った冷暖房機を設置している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) それぞれの身体機能に応じた生活リハを取り入れている(段差等の活用)		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の力により、本人の希望していることや工夫したいことを一緒に行っている わかる力が弱くなって人については家族の意向に添って支援している		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外回りは近所の人々が花壇作りをしてくれている 縁側には椅子や縁台を置きくつろげる工夫をしている		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日、何をして過ごしたいかを聞き、なるべく期待にそえるようにしている
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	個々のくつろぐ場所でおやつや日常会話を職員と一緒に楽しんでいる
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれの生活リズムのペースで暮らしている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常会話の中やゲーム等を通して沢山の笑顔がみられている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その日の利用者さんの希望により、ドライブ・買物・カフェ等に行ったりしている
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月に1回の定期受診、2週間に1回の定期服薬処方と急病に対しては医療機関との連携を図っている
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんのお友達の突然の訪問や、美容室や友人宅への訪問を急に希望された時にも対応している 家族との外出も自由に行っている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の訪問時にはゆっくりと時間をとり、困りごとや不安は無いかな聞き取りをしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	近所の方が花壇の水遣りや草引きに来てくれたり、縁側に近所の方が話に来ている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に参加してくださった方が、散歩中に気軽に声を掛けてくれたり、また認知症の理解を深めたいとボランティアさんと共に勉強会を開催しようと協力してくれた
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間の意思疎通ができていて、なんでも言い合える仲間になり利用者さんと一緒に笑いがたえない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	おおむね満足していると思うが、中には遠慮をしたり言語が不自由な為全部伝えきれているとは思えない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんの普段の感謝の気持ちは必ずしも本音とは思わず、利用者さんと家族さんがここで良かったと思ってもらえるように努力していきたい

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

毎週幼稚園との交流や書道教室、毎月の音楽や体操をディサービスと一緒に年間通じて行っている(地域の文化祭に出展する)  
NPOボランティアが主催の縁側プロジェクト(心のテーブル)を食を通じて地域まきこみ開催している  
地域の人がいつでも立ち寄れる縁側を開放している(近所の人が戸締りや掃除をしてくれている)